

# 加納城内の建物

明治6年(1873)、加納城の全ての建物は取り壊されてしまい、今は石垣を残すのみとなってしまいました。しかし江戸時代には城内に多くの建物が建ち並んでいました。

このパネルは17世紀後半頃の絵図を元に、当時の建物の配置を示したものです。

## てんしゅだい 「天守台」

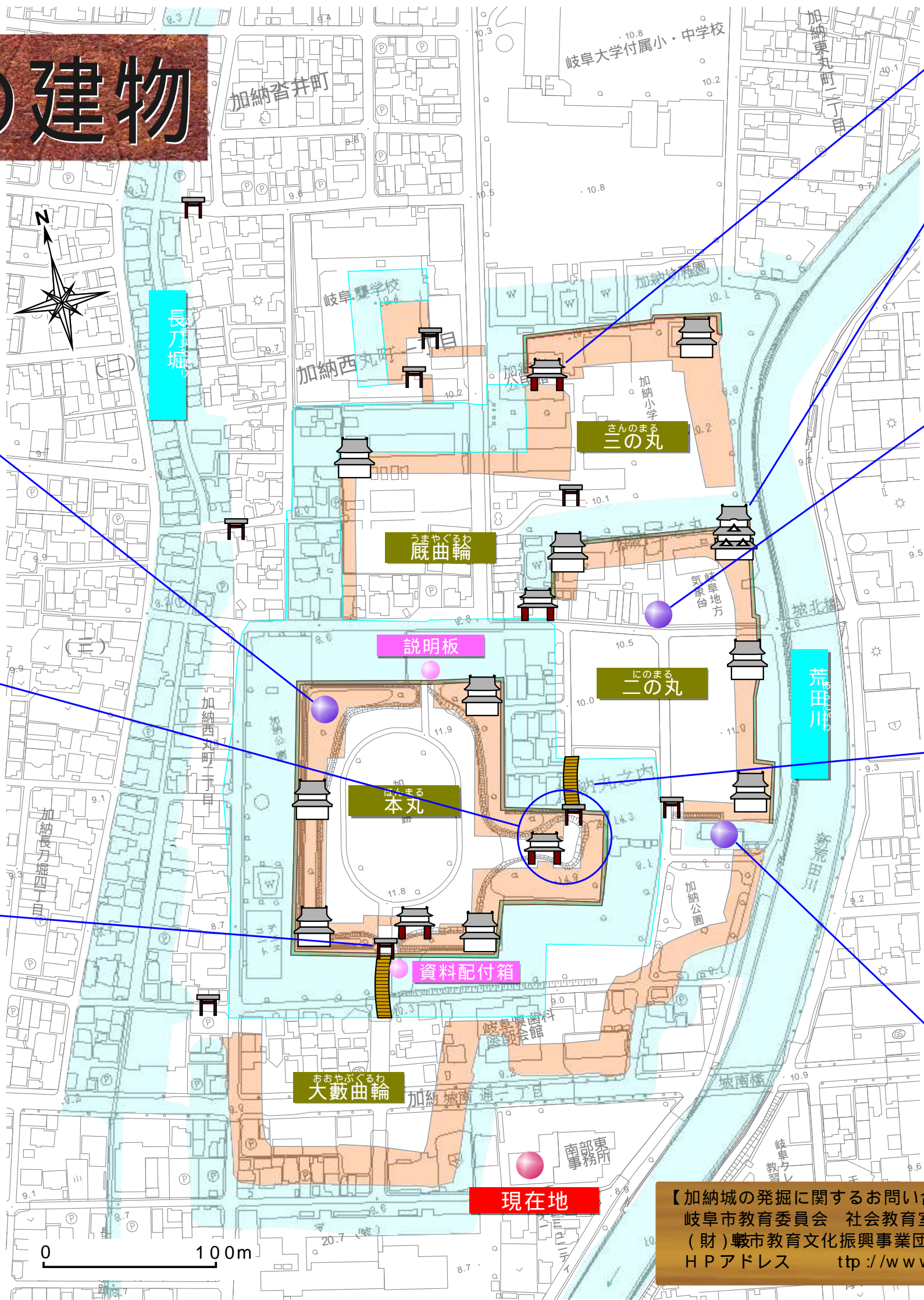
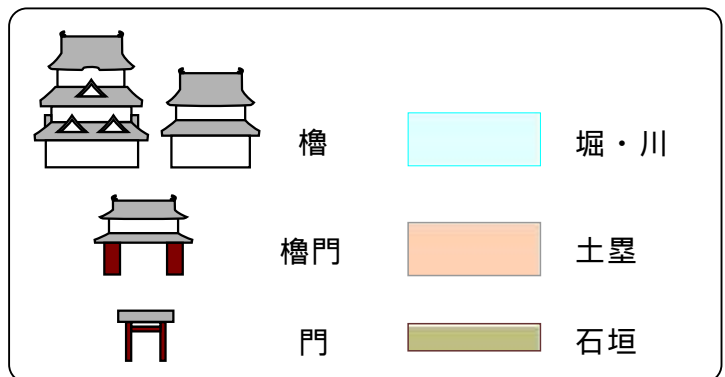
”天守台”とは、天守(閣)の土台のことです。この場所は、江戸時代に描かれた幾枚かの絵図に「天守台」と記されているところで、現況でも最も高い場所です。しかし天守そのものが描かれた絵図は今のところ見つかっておらず、実際に建てられたかどうかは不明です。

## すしがねもん 「筋鉄門」

本丸の正面出入り口であるこの場所には、「筋鉄門」と「鉄門」の2つの門が建てられ、「枳形」という防御施設が造られていました。本丸の凸字の形とこの枳形は徳川が初期に造った城の特徴で、加納城はその元祖でした。現在このような形の城は加納城型と呼ばれています。

## おくびょうもん 「臆病門」

加納城の裏門にあたる門です。ここから城主が逃げ出すのは臆病だとして、「臆病門」などともいわれています。



## たいこもん 「太鼓門」

時を告げる太鼓が設置されていたと伝えられる門です。

## おさんかい 「御三階」櫓

加納城で唯一の3階建ての櫓です。築城時、岐阜城の天守を移築したという伝承があります。享保13年(1728)城町で発生した火災が加納城内にも及び、その時、焼け落ちたといわれています。その後、再建されることはありませんでした。

## にのまるごてんあと 二の丸御殿跡

歴代の城主の御殿があったところです。一説によれば初代城主奥平信昌が隠居した時に、本丸御殿から移り住んだといわれています。御殿の柱の土台となる礎石(写真の赤丸)や井戸などが発掘調査で発見されています。



## ほんまる 本丸の堀

平成16年度の発掘調査で、堀の底に碁盤目状の土手(写真の青線)がある「堀障子」という構造が発見されました。本丸を巡る堀には全周「堀障子」があったと考えられます。



## ふないり 「舟入」

城内に舟で物資などを運び込むための施設です。荒田川に接続されており、長良川から遡るルートが想定されます。

現在地

【加納城の発掘に関するお問い合わせ】  
 岐阜市教育委員会 社会教育室 電話 265-4141(内線6357)  
 (財)岐阜教育文化振興事業団 埋蔵文化財調査事務所 電話 241-8122  
 HPアドレス <http://www.gifu-gifu.ed.jp/org/mabun/>